

2021年3月期
第3四半期(4月1日～12月31日)
連結決算の概要

ロート製薬株式会社
2021年2月10日

2021年3月期第3四半期の概況

□ 概況

- 新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響により減収。
- 医療用医薬品開発に向けて研究開発費が増加したことなどにより営業利益減益。

□ 国内市場

- マスク文化の定着などにより、リップクリームが減収。
- 「メラノCC」や「デオコ」など話題の商品は好調持続。
- 子会社が売上・利益に貢献。
- インバウンド需要は低迷するものの越境ECが堅調。

□ 海外子会社も減収減益

- インドネシアや台湾、ベトナムなどは堅調なもの、中国や香港などが減収減益。

□ 通期業績予想は据え置き

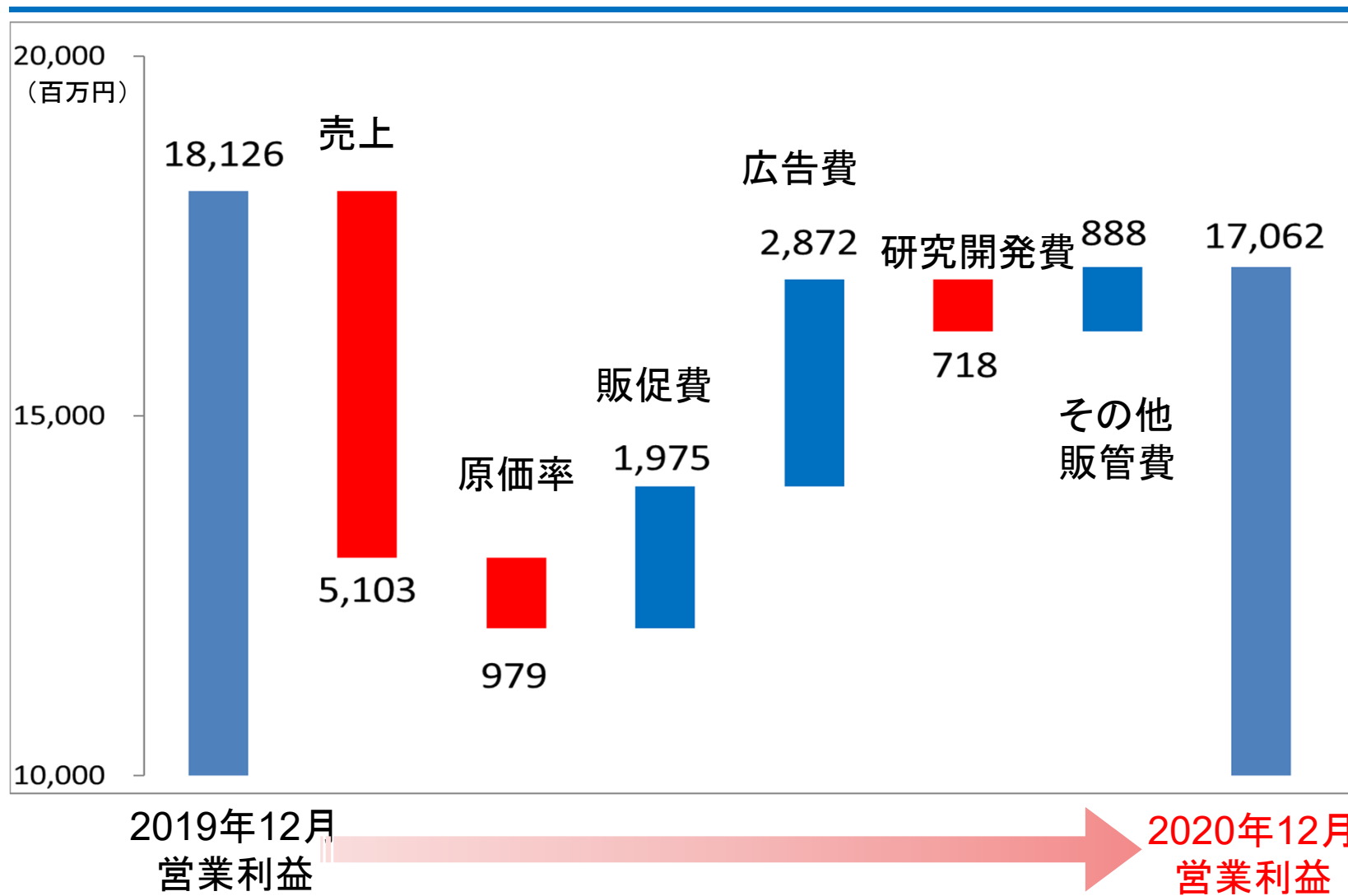
連結損益

(単位 百万円,%)

	2021年3月期 第3四半期	売上高比	2020年3月期 第3四半期	増減額	増減率
売上高	129,611	100.0	138,119	△8,507	△6.2
売上原価	52,849		55,275	△2,425	△4.4
原価率	40.8		40.0		
販管費	59,699	46.1	64,717	△5,018	△7.8
販促費	14,370	11.1	16,346	△1,975	△12.1
広告費	13,588	10.5	16,460	△2,872	△17.4
研究費	5,686	4.4	4,967	718	14.5
その他	26,053	20.1	26,942	△888	△3.3
営業利益	17,062	13.2	18,126	△1,063	△5.9
経常利益	17,426	13.4	18,072	△645	△3.6
親会社株主に帰属する純利益	11,083	8.6	12,562	△1,479	△11.8

為替レート:USDドル=106.51円(前年同期 108.89円)

連結営業利益の増減



報告セグメント別売上

(単位:百万円、未満切捨,%)

		2018年12月期		2019年12月期		2020年12月期			
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高		134,695	100.0	138,119	100.0	129,611	100.0	△ 8,507	△ 6.2
報告セグメント	日本	84,249	62.6	87,012	63.0	83,671	64.6	△ 3,341	△ 3.8
	アジア	35,665	26.5	36,371	26.3	32,877	25.4	△ 3,493	△ 9.6
	アメリカ	6,756	5.0	6,626	4.8	5,852	4.4	△ 773	△ 11.7
	ヨーロッパ	6,576	4.9	6,803	4.9	5,942	4.6	△ 860	△ 12.6
	計	133,247		136,813		128,344		△ 8,469	△ 6.2
その他		1,448	1.0	1,305	1.0	1,266	1.0	△ 38	△ 3.0

※ 売上高は外部顧客に対するものです

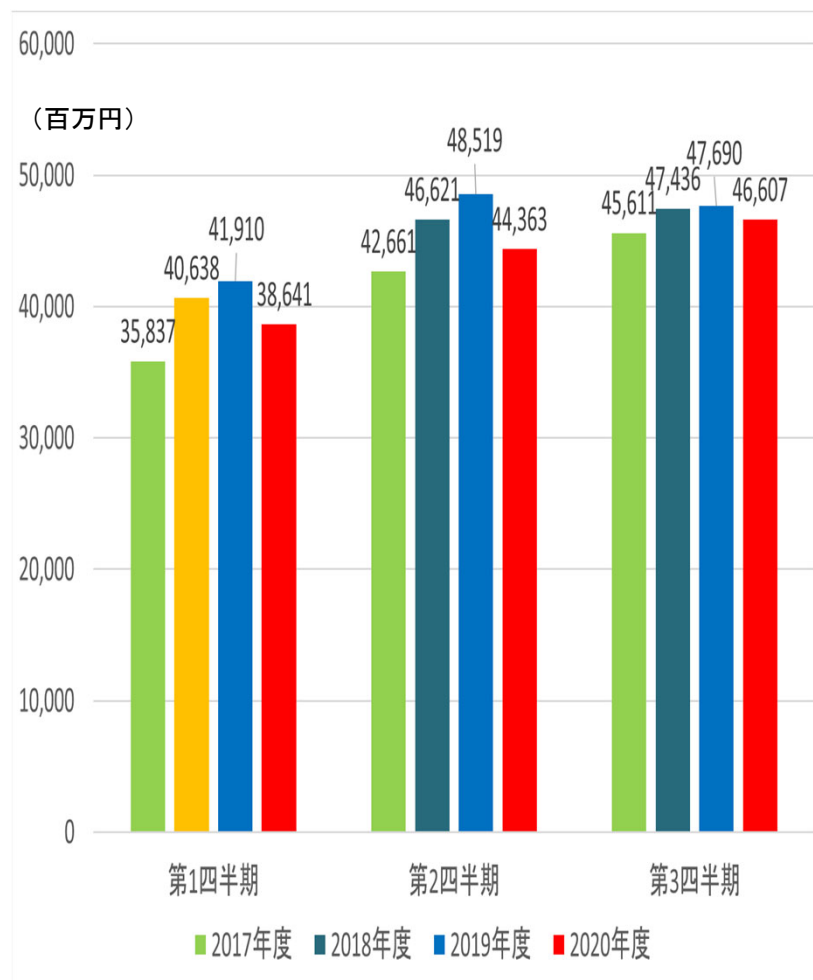
報告セグメント別営業利益

(単位:百万円、未満切捨,%)

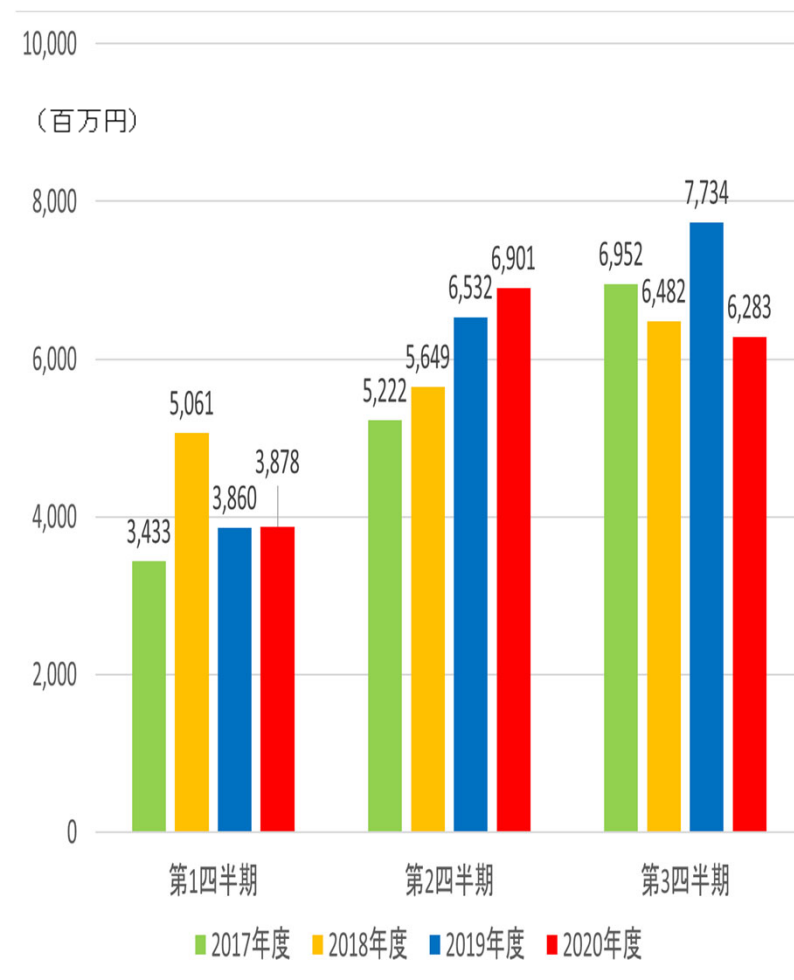
		2018年12月期		2019年12月期		2020年12月期			
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
営業利益		17,192	100.0	18,126	100.0	17,062	100.0	△ 1,063	△ 5.9
報告セグメント	日本	10,761	62.6	11,472	63.3	10,485	61.4	△ 987	△ 8.6
	アジア	5,751	33.4	6,044	33.3	5,612	32.9	△ 431	△ 7.1
	アメリカ	14	0.1	46	0.3	170	1.0	123	267.1
	ヨーロッパ	319	1.9	204	1.1	479	2.8	275	134.9
	計	16,847		17,666		16,747			
その他		132	0.8	92	0.5	64	0.4	△ 28	△ 31.1
調整額		212	1.2	266	1.5	251	1.5	△ 15	
為替レート (USドル/円)		110円43銭		108円89銭		106円51銭			

四半期業績の推移

連結売上高(四半期)

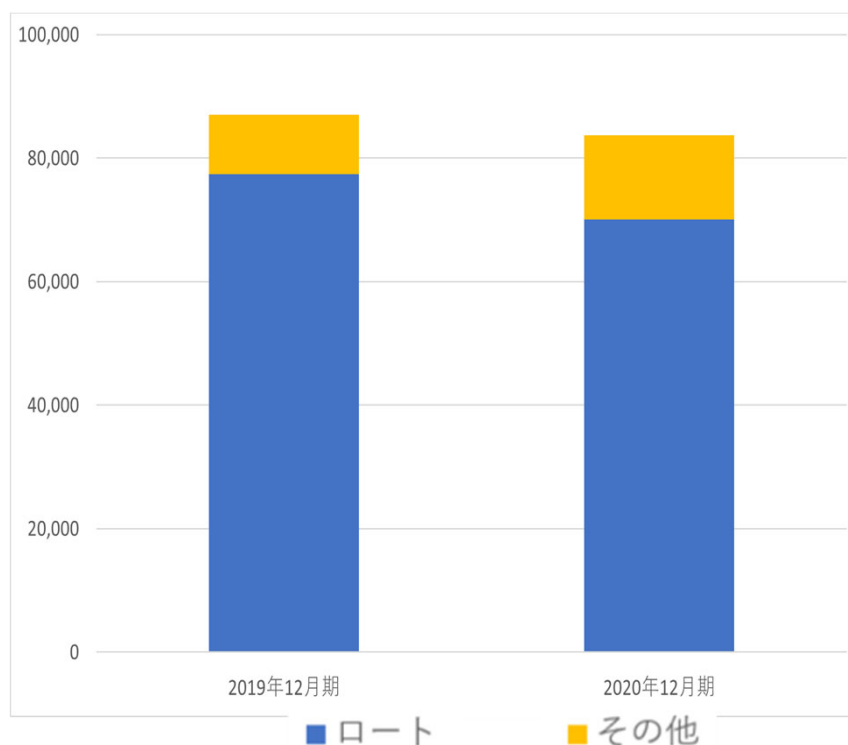


連結営業利益(四半期)

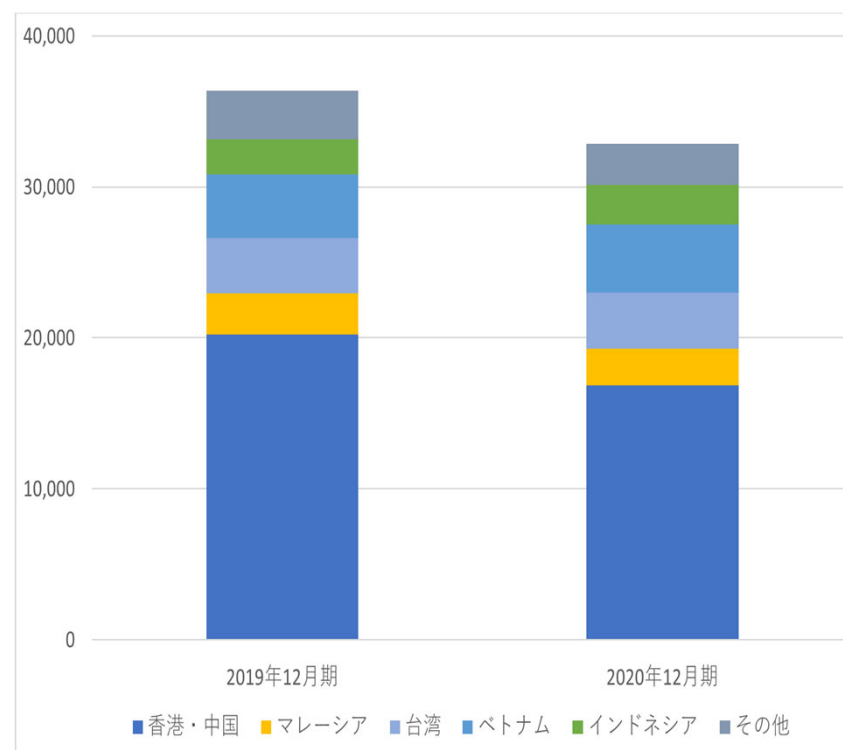


ロート個別及び中国が減収

- 日本は、子会社の売上貢献で減収幅が△3.8%減にとどまる。
- アジアは、インドネシアやベトナムなどASEAN諸国が堅調なものの、中国・香港が減収で、△9.6%の減収。

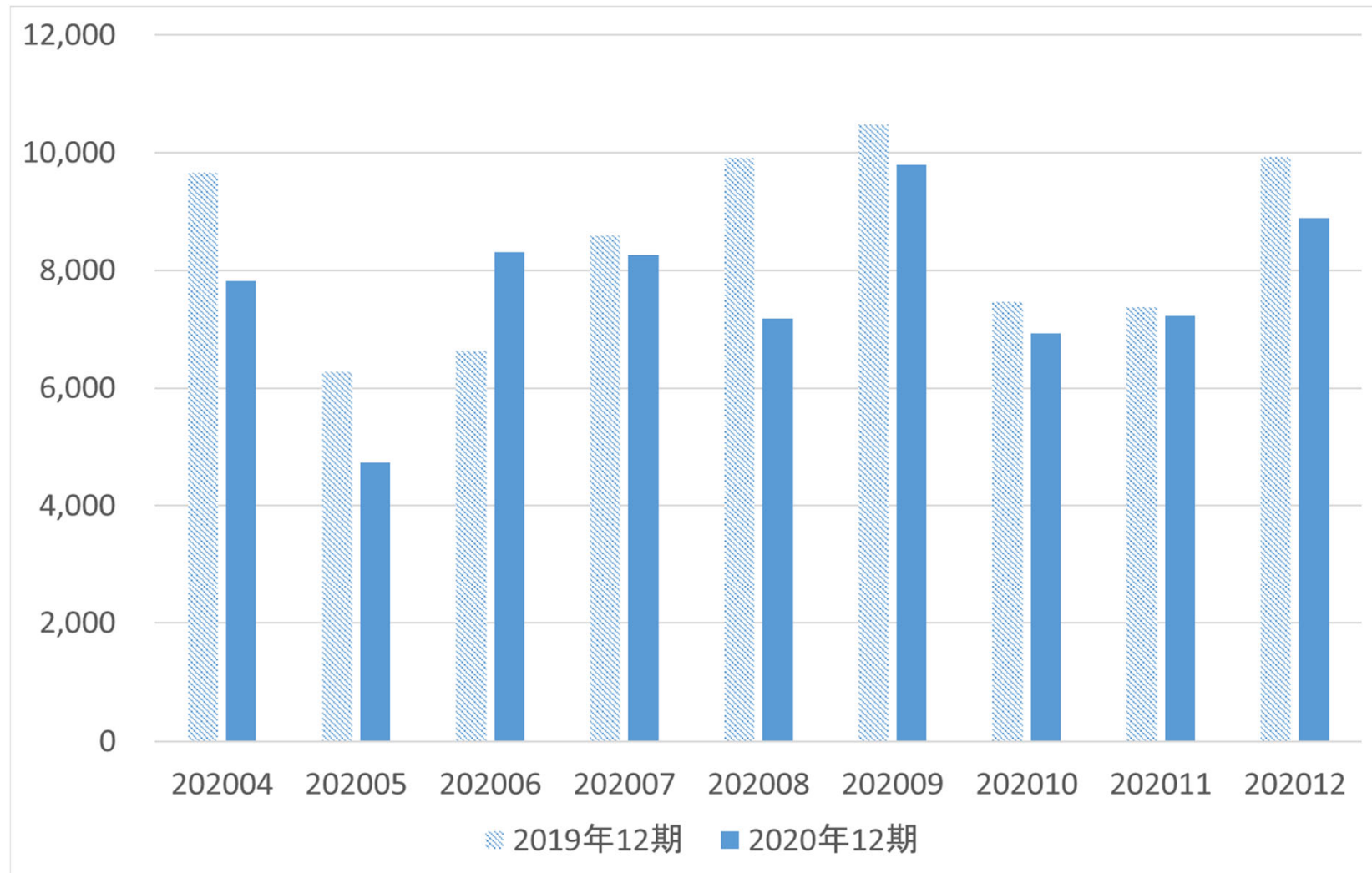


日本の外部売上比較(3Q)



アジアの外部売上比較(3Q)

国内ヘルスケア関連売上の推移(月次)



感染予防策定着

□ マスク文化や手洗いの浸透

□ リップクリーム 減収

□ 約38億円 △23億円 △37.5%減 3Qのみでは半減

□ ニキビ関連は堅調

□ 約12億円 2.6%増

□ ハンドケアも堅調

□ 約16億円

□ コロナ禍で漢方薬への関心は高まる

□ 和漢箋シリーズは堅調

□ 約17億円 14.9%増

□ インバウンド需要は低迷

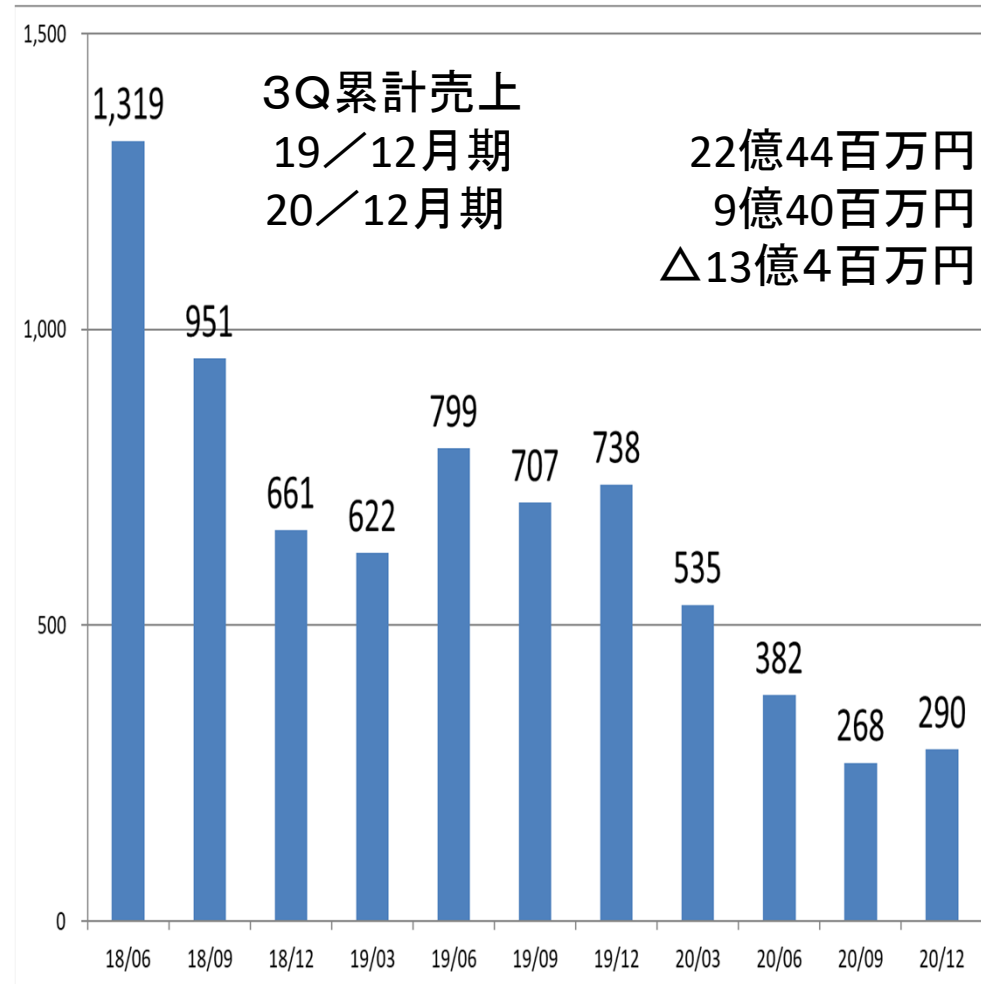
インバウンド需要低迷も越境ECが堅調



圧倒的人気のマノCC シリーズ



エピステーム ステムサイエンス
 ストリンク



インバウンド関連四半期売上の推移

好調な商品群

□デオコ

年齢と共に変化するオトナ女性の
 ニオイケアブランド

□ 約14億円 22.3%増



□メラノCC

□約31億円 30.9%増



□ロートV5粒

□ 約18億円 31.7%増



ASEAN諸国好調

インドネシアなどASEAN諸国が好調！

□ インドネシア 26.5億円 前年同期比 15.6%増収

- ニキビ関連
- 日焼け止め
- ハダラボ



□ ベトナム 国内売上は増収確保



通期業績予想は据え置き

(単位:百万円、未満切捨,%)

	2019年3月期	売上比	2020年3月期	売上比	2021年3月期 予想	売上比	増減額	前期比
売上高	183,582	100.0	188,327	100.0	183,000	100.0	△ 5,328	△ 2.8
営業利益	20,812	11.3	23,085	12.3	21,800	11.9	△ 1,286	△ 5.6
経常利益	18,970	10.3	22,735	12.1	22,100	12.1	△ 636	△ 2.8
親会社株主に帰属 する当期純利益	9,799	5.3	15,410	8.2	14,000	7.7	△ 1,411	△ 9.2
1株当たり 当期純利益(円)	86.00		135.13		122.73			

為替レート
 USD/円

110円48銭

109円05銭

107円

報告セグメント別売上予想

(単位:百万円、未満切捨,%)

		2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期			
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高		183,582	100.0	188,327	100.0	183,000	100.0	△ 5,328	△ 2.8
報告セグメント	日本	112,166	61.1	115,767	60.3	115,800	63.3	32	0.0
	アジア	51,664	28.1	52,971	28.8	49,500	27.0	△ 3,472	△ 6.6
	アメリカ	9,293	5.1	9,121	5.2	8,200	4.5	△ 922	△ 10.1
	ヨーロッパ	8,555	4.7	8,740	4.8	7,800	4.3	△ 941	△ 10.8
	計	181,679		186,601		181,300	99.1	△ 5,302	△ 2.8
その他		1,903	1.0	1,726	1.0	1,700	0.9	△ 27	△ 1.5
為替レート (USドル/円)		110円48銭		109円05銭		107円			

※ 売上高は外部顧客に対するものです

報告セグメント別営業利益予想

(単位:百万円、未満切捨,%)

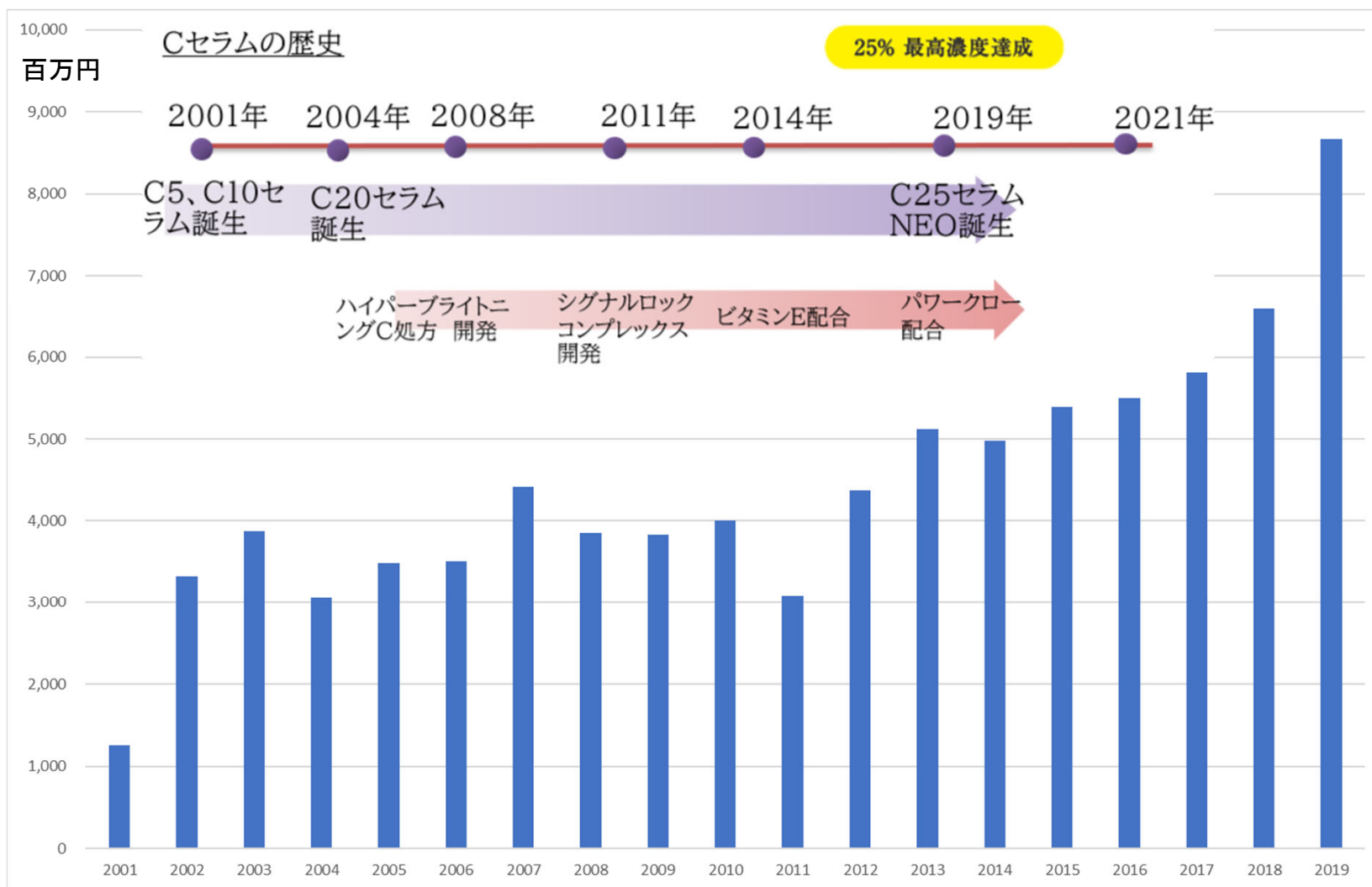
		2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期			
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
営業利益		20,812	100.0	23,085	100.0	21,800	100.0	△ 1,286	△ 5.6
報告セグメント	日本	13,181	63.3	14,852	64.3	14,000	64.2	△ 853	△ 5.7
	アジア	6,497	31.2	7,220	31.3	6,700	30.7	△ 521	△ 7.2
	アメリカ	286	1.4	283	1.2	200	0.9	△ 84	△ 29.5
	ヨーロッパ	352	1.7	217	0.9	500	2.3	282	130.0
	計	20,317		22,573		21,400		△ 1,174	
その他		163	0.8	142	0.6	100	0.5	△ 43	△ 29.8
調整額		330	1.6	369	1.6	300	1.4	△ 70	
為替レート (USドル/円)		110円48銭		109円05銭		107円			

オバジ生誕20周年

ビタミンCの効果性追求のための
ベース処方変革を実施

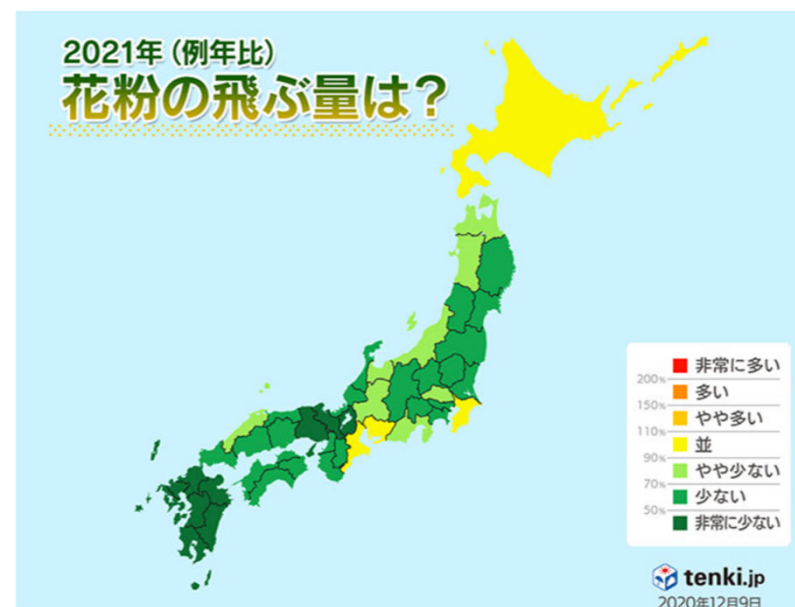
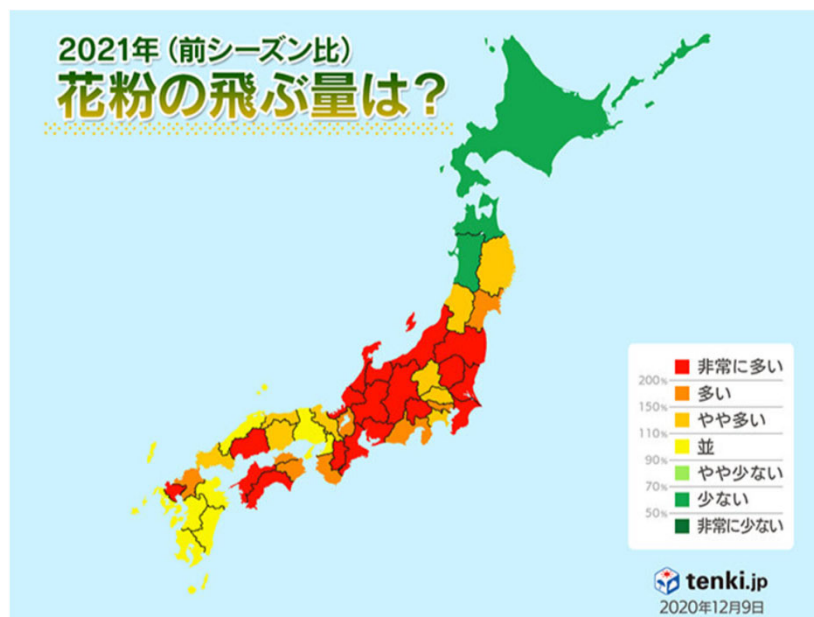


オバジ 売上推移 ～新たなステージへの一歩～



花粉飛散量予想

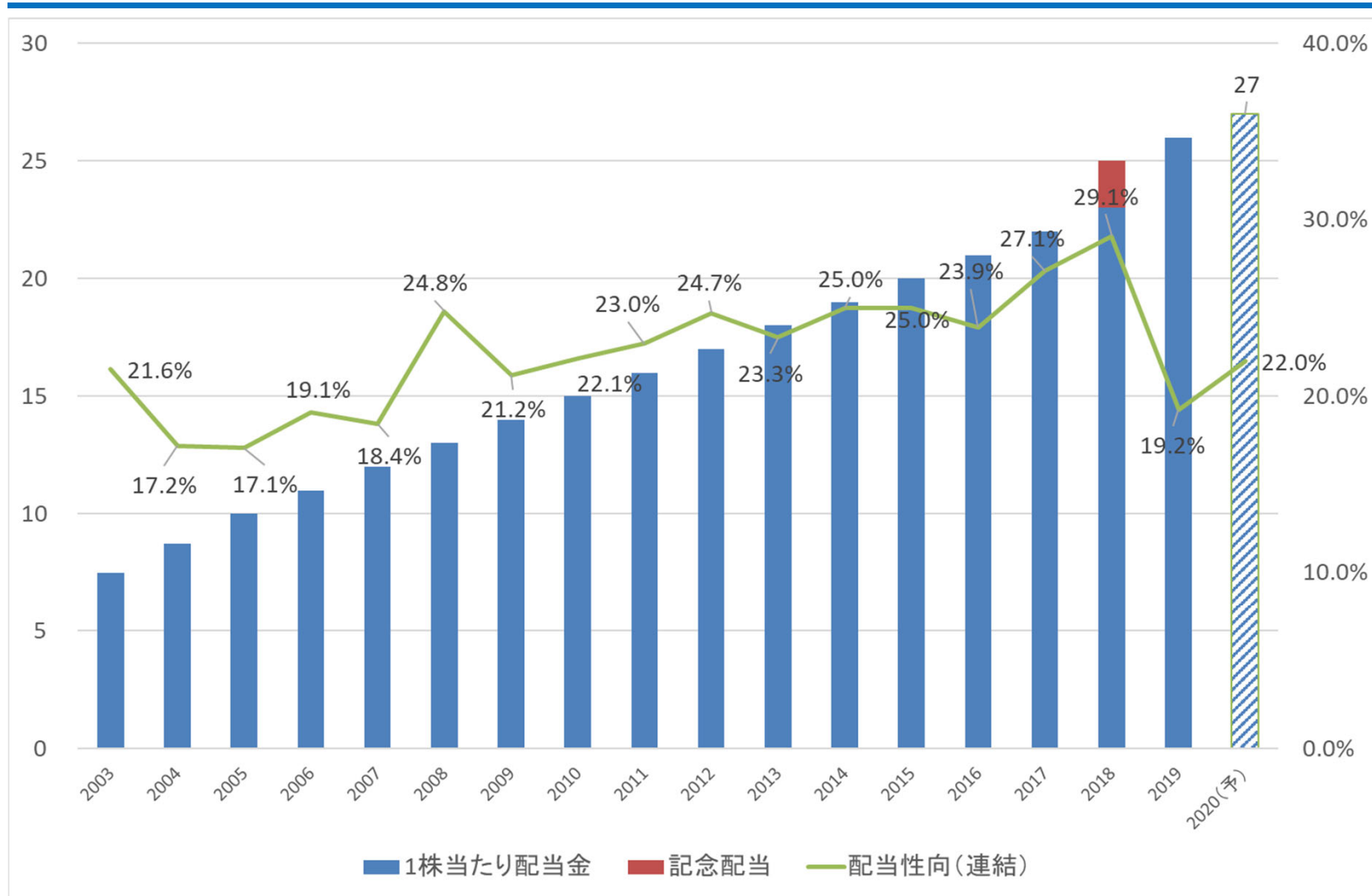
2021年春の花粉飛散傾向予測は、広い範囲で例年より少ない見込み。一方、前シーズン比で見ると、九州から関東にかけて多くなる予想。これは前シーズンが例年より非常に少なかったためで、2021年春は注意が必要です。



日本気象協会20201209

日本気象協会20201209

17期連続増配予定



- 本資料は、投資判断の参考として、弊社の現状を理解して頂くために作成したものです。
 - 本資料に記載された内容は、作成時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢および弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
 - 投資を行う際は、ご自身の判断において行っていただきますよう、お願いいたします。
 - 本資料を利用することにより生じた、いかなるトラブルおよび損失、損害に対して、弊社は一切責任を負いません。
-